

少子化対策を積極的に！
自治体にも「経営」の概念を！
人口増を維持し続けるには？

改めて申し上げます！

出産子育てをはじめとした子供関連予算を必要なところに適正配分。
持続可能な「自治体経営」を目指して。
草津市にもいずれやってくる人口減に
今のうちにできることは？

念願達成!!
ついに公式試合のできるプールが完成!
令和6年度オープン
第2給食センターオープン!

旧草津川J.R上道路拡幅が
いよいよ実現!
永年の懸案事項が令和6年ついに始動!
交通の利便性が向上します。



施設の充実は市民の生活向上につながります。
キラリ工草津オープン
小・中学校トイレ改修
草津警察署リニューアル
etc...

地元のためにが考動の原点です。

- 笠縫東グラウンド改修
- 駒井沢町、集町通学路改善工事
- 栗東志那中線横断歩道設置
- 笠縫学区まちづくりセンター用地拡大と新設
- 駒井沢町、新堂町、集町地区計画
- 川原町地先葉山川沿い雨水流入対策工事
- 新堂町横津川水門改修設置
- 駒井川雑草除去及び浚渫
- 栗東志那中線、新堂中学校入口信号「新堂町」プレート設置

ゼロカーボンシティ(草津市気候非常事態)を市と共同宣言する礎を構築。
議長・委員長を歴任し、様々な議会対策を行いました。

コロナを卒業!
草津の経済・文化の飛躍を目指して。

草津市議会議員
西田つよし

<https://kodo-tsuyoshi.net/>



後援会通信

考動!

KoDo! - 2023年6月号

これからもひびくりを中心に

西田つよしは市民の皆様のために考動します!

少子化対策を積極的!

施設の充実には市民の生活向上につながります。

現在、日本は本格的な少子高齢化社会を迎えています。出生数77万人に対して亡くなられた方は140万人。1年間で鳥根県の人口に匹敵する約63万人以上が日本からいなくなっている計算です。

様々な意見もあるかと思いますが、少子化の最も大きな原因は、結婚をする人が減ったこと、将来の見通しがたらず子どもを持つことをためらう人が増えたこと、そして子育てにお金がかかりすぎる経済的な問題と考えられています。

この極めて重大な問題に対してはこれまで以上に、効果のある施策に対して積極的な予算を割き、しかも持続的に市政を行うっていく必要があると考えます。そのために努力を惜しまず市政へ提言、協力を行ってまいります。

自治体に経営の概念を!

これまでも取り組んでまいりましたが、わがまち草津にも人口減、地価下落による税収減減社会がやって来ることが分かっている今だからこそ、市民の大切な血税を、自治体も経営感覚をしっかりと持ち、市民のために有効且つ効果的なものとするための各制度、事業、政策を展開していくように監視するだけでなく、今まで以上に政策提言、提案を発信してまいります。

人口増を維持し続けるには?

草津市は前述の人口減が続く中、数少ない人口増を実現している自治体です。しかし、この人口増も令和12年を境に緩やかに減少に転じるかと予想されています。全国的にも少子化に対する施策が議論されていますが、そういった人口減を食い止める施策よりも人口増を促す施策を今のうちから行う事により人口増を維持できると考えます。

ついに競技用プールが完成!

かねてより念願であった公式試合の行えるプールが草津市に完成します。実現に向かって努力してきたことが報われることは感無量ですが、これに慢心せず、様々な施設の充実に今後も力を入れたいと思います。

第2給食センターオープン!

令和3年10月、第2給食センターがオープンいたしました。令和4年1月の中学校給食の開始により、栄養バランスの確保された昼食の提供が行われています。第二中学校給食センターは、1日最大4,500食を提供できる調理能力と、大災害時の炊き出し機能を持っています。なお、建設地は「草津市洪水内水ハザードマップ」では浸水想定エリアに含まれていますが、建設時に地盤の盛土を行うなど運営に支障ないよう対策を講じています。

旧草津川JR上道路拡幅が

いよいよ実現!

草津川跡地JRトンネル上の道路拡幅が決まり、令和6年2月に完成する予定となりました。JRトンネル上の県道拡幅は長年の懸案事項で、これまでどれだけアプローチしても議論のテーブルにも上がらなかつた案件でしたが、これまでの私の議員経験から培った人脈によって、この度ようやく拡幅工事に着手する事になりました。大変喜んでおります。議会に於いても承認し、令和6年2月に共用開始予定となりました。

キラリ工草津
かなりの長期間草津駅前の一等地にありがたなら空き地のままとなっていた西友跡地に草津市立市民総合交流センター「キラリ工草津」としてオープンいたしました。
●小中学校トイレ改修
橋川市長の想いである「期目のマニエストに掲げた「小中学校トイレ改修」が、今日まで順次実施され、様式化やバリアフリー化など生徒が使いやすいトイレとして生まれ変わりました。
これからも、トイレが老朽化していく順に手を加えていく予定としています。
●草津警察署リニューアル
草津市の治安の要である草津警察署が令和3年装い新たに野村3丁目に新築移転しました。

ゼロカーボンシティ(草津市気候非常事態)を市と共同宣言。

令和2年、令和3年、私が議長の際に、議会改革の二環で、議会の政策立案能力を高めるトレーニングとして「議員、ディスプレイ」を行いました。
その際のテーマとして、西川仁議員から「自転車利用促進」、そして山元宏和議員から「環境問題」をテーマとしてご提案頂き実施しました。
この二つの環境、エコ事業がきっかけになり、市と共同で「草津市気候非常事態」を宣言しよう、当時の担当部長と調整を進めてまいりましたが、宣言準備に時間がかかり私の議長任期中に市長との宣言に間に合いませんでしたが、次の議長に引継ぎし無事に宣言する事が出来ました。

議長・委員長を歴任し、様々な議会対策を行いました。

- 令和2年10月、令和3年9月末 議長時
●宿場まつりで議会出展ブースに委員会活動報告を計画。ウイルス感染症の感染防止の観点から、対面式の方法を改めるよう検討。
- 映像配信型の議会報告会、WebオープンThe 議会を実施。
- 議会での反問権の拡大、質問方法の選択制、質問通告書の共有化、予算決算委員会の定数見直し、議会運営委員会と議会改革特別委員会のあり方の検討など、数々の議会改革を行いました。
- 令和3年、現在 議会運営委員長時
●正副委員長会議にて、従来のイベント形式にこだわらず、HP等で情報発信する手法を検討してはどうかという提案を行う。
- HPを活用しながら情報発信を積極的にを行い、広報広聴機能を強化を提案。
- 正副委員長案として、スケジュールや掲載内容イメージを説明。対面式の報告会を行わず、HPを活用しながら広報広聴に努めるよう決定。あわせて、議会基本条例についても改正するよう決定。
- HPを活用した広報委員会活動、手法やスケジュール等について、改めて正副委員長案を説明、反対意見なし。「広報編集委員会を強化、所管事項や人数の増員など」、議会報告や広聴の内容を担う委員会組織にしてはどうかという委員からの意見を踏まえ、正副委員長案として、広報編集委員会、HPによる議会報告を行うよう決定。
- 広報広聴委員会設置への礎を作る。
定例会にて、議会基本条例第7条改正(議会報告会)→広報広聴機能の充実。

西田つよし プロフィール
 昭和36年4月2日生まれ 62歳
 株式会社かなや 代表取締役

草津生まれ、草津育ち
 平成15年9月 草津市議会議員初当選
 令和元年9月 草津市議会議員5期目当選

平成28年10月 草津市議会第63代議長
 令和2年10月 草津市議会第68代議長
 令和3年10月～ 議会運営委員会委員長
 令和4年10月～ 保守系最大会派草政会会長
 上記以外にも議会選出の監査委員、各常任委員会の正副委員長を歴任

平成24年～ 笠縫東学区まちづくり協議会 文化・教育・体育部会 部会長
 平成27年～ 笠縫東学区まちづくり協議会 副会長
 令和4年～ 笠縫東学区体育振興会顧問

西田つよし後援会通信
「考動!」- KoDo! 2023年6月号
編集・発行元
西田つよし後援会事務局
〒525-0014
滋賀県草津市駒井沢町268-1
TEL 077-568-2080
FAX 077-568-1677

地元のためにが考動の原点です。

笠縫東まちづくりセンター整備事業の経過について

市では、各学区にある地域まちづくりセンターの建て替えを進めておられ、平成24年度に実施した「市民センター施設機能調査」に基づき、建築後相当年数が経過し、老朽化が進んでいる笠縫東、矢倉、玉川、山田、老上の地域まちづくりセンター5施設を、築年数順に更新する計画となっております。

笠縫東まちづくりセンターは、昭和57年に建築され、40年以上が経過しており、整備対象の5施設の中でも、一番古い施設であるため、令和4年度から基本実施設計に着手し、令和5年度に改築工事に入っていく予定となっております。

施設の更新にあたっての市の基本方針では、原則として、センターを運営しながら、同敷地内にて改築することとして、施設規模は延床面積約6300㎡、敷地面積17000㎡程度とされています。

笠縫東まちづくりセンターの敷地面積は16700㎡であり、概ね市が定めている基本的な規模であることから、基本方針とおりの整備になるとの説明を受けていました。

笠縫東学区まちづくり協議会では、笠縫東まちづくりセンター建設準備委員会を立ち上げられ、協議を重ねてこられました。現在の敷地内での建て替えでは、南向きの施設を活かしたこれまでの活動や取組ができないことや、何よりも駐車場が狭いことの課題解決が図れないなどの点が大きな懸念材料となっております。

令和3年に行われた新しいセンターに必要なスペースや設備等についての学区民へのアンケートでも、新しいセンターに求めることとして、広い駐車場、今後のまちづくりの拠点となるセンター機能、様々な活動が出来る充実したスペースが欲しいなどの意見が皆さんから寄せられていると伺います。

人生1000年時代と言われていますが、1000年時代に向けて若者から高齢者までのすべての人が元気で安心して暮らすことができる住みよいまちづくりを推進していくことが大切です。

1000年という長い期間をより充実した人生とするためには、生涯にわたる活躍の場や学習の場を提供することが重要であり、健康で生きがいを育むまちづくりが実現できるものと考えています。

「1000年先を見据えて、何としてもこの機会に、用地の拡充を図り、センター機能の向上を図ることが必要である。これが、笠縫東学区まちづくり協議会が議論の末に出された結論でした。」

しかし、市の基本方針から、笠縫東まちづくりセンターは、概ね市が定めている基本的な規模であるため、用地の拡大は出来ないというのが市からの回答でした。

そこで、笠縫東学区まちづくり協議会で用地を取得し、その土地に新しいセンターを建築する案を提案され、市との協議が行われました。

しかしこのでも、二つの大きな問題として、笠縫東学区まちづくり協議会には法人格がないため、用地の登記ができないということがありました。

用地取得の方法について、様々な角度から検討をされた結果、市からの指導も受けられ、笠縫東学区まちづくり協議会から用地費を寄附し、市で用地取得していただき、「負担付き寄附」という手法により、課題解決を図るよう市との協議が整いました。

その後、令和5年1月29日(土)には、笠縫東学区まちづくり協議会の臨時総会が開催され、笠縫東まちづくりセンターの建て替えに際し、敷地の面積を拡充するため隣接地の購入に必要な経費を市に負担付き寄附することなどの議案を審議いただき、可決承認されました。また、市議会の2月定例会市議会では、負担付き寄附の受納につき議決を求めることについての一般議案とこれに関連する令和5年度当初予算案を可決しました。

笠縫東まちづくりセンターの今後の整備計画としては、令和5年度に用地の取得手続きが行われた後、新しいセンターの基本実施設計業務と現在のセンターの解体設計業務が行われます。

そして、令和6年度に新しいセンターの新築工事が行われ、令和7年度に現在のセンターの解体工事と新しいセンターの供用開始という予定となっております。

昨年度に行われた市長とまちづくりトークでは、笠縫東まちづくりセンター建設準備委員会で検討を進めてこられたセンター建設計画図の概要を直接、橋川市長に説明しておられ、今年度に進められる設計業務に十分反映していただくよう市と協議していきたくて予定しております。

また、皆さんにご心配いただいているかと思いますが、新しいセンターの予定地は、ハザードマップで浸水想定区域内となっておりますので、近隣で整備されている第一学校給食センター建設時と同様の対策を市に求めていくよう考えております。

笠縫東まちづくりセンター整備事業については、私自身も地元議員として、また、笠縫東学区まちづくり協議会の役員として、同僚の西村議員とともに、それぞれ汗をかきながら、今日まで力を注いでまいりました。今後も微力ではありますが、学区民の皆様の活動拠点として素晴らしいものとなりますよう事業推進に向けて取り組んでまいりますので、引き続き、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いたします。

